

人材育成を目的とした高大連携事業を開催

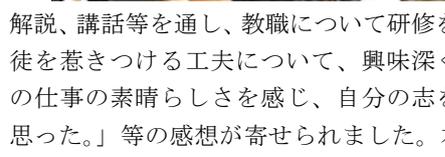
仙台大、尚絅学院大、東北学院大の学生が来校

教員を目指す大学生が、授業参観や解説、講話を通し、教職について学ぶ高大連携事業を、昨年に引き続き開催しました。11月14日に仙台大学生が体育と保健の授業を、



生徒の中に入って授業を体験する東北学院大学生

11月17日に尚絅学院大学生が公民の授業を、12月14日に尚熱心に参観する



東北学院大学生が英語の授業をそれぞれ参観し、本校職員の

解説、講話等を通し、教職について研修を行いました。「生徒を惹きつける工夫について、興味深く感じた。」「教師の仕事の素晴らしさを感じ、自分の志を高く持ちたいと思った。」等の感想が寄せられました。本校はこれからも



授業の解説を興味深く聞く仙台大学生

春に備えコツコツ頑張る北高生の冬

2018・平成30年も北高は頑張ります！

に地元初城の古道具部は



12月24日～1月7日の冬季休業、北高生は課外講習や部活動等、春に向けて力を蓄える活動にじっくり取り組みました。講習では入試直前の3年生を始め、1、2



センター試験に向けて3年生

年生も教科の発展分野に挑戦し、じっくりと学習に取り組みました。部活動では2年生が主体となって部をまとめ、課題の克服に取り組み、今年6月の県総合体育大会等を見据えて各部とも力を蓄えました。



女子バレーボール部は県内外7校が本校を会場に合同合宿を開催

夢あふれる2018

(平成30)年を期待させる新年が始まりました。今年も応援していただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

県アンサンブルコンテストに向けて練習する



朝の挨拶運動とともに冬休み明け授業が開始

1月9日の開講式から始まった校門での挨拶運動は、寒さの中にも明るい声が交わされ、爽やかな新年の始まりとなりました。



朝の挨拶が響く

青少年読書感想文全国コンクールに宮城県代表として選出

11月に行われた青少年読書感想文コンクール宮城県審査会で、自由読書部門優秀賞(最高位一点)に佐藤文香さん(1年・名取一中出身)の作品『生きるために』が選出され、二月の中央審査会(全国コンクール)に進出しました。

『世界から猫が消えたなら』の感想文を書いて 佐藤文香

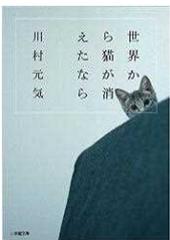


私は幼い頃から読書が好きでした。たくさんの本を読み、たくさん素敵な物語に出会いました。『世界から猫が消えたなら』も、その中の一冊です。

脳腫瘍で余命わずかと言われた「僕」の前に、ある日突然悪魔が現れます。「この世界から何かを消す。その代わりにあなたは一日だけ命を得る」という悪魔からの取引に応じた「僕」が、世界からモノを消すことで大切なものに気付いていく姿が描かれています。もしも世界から自分の大切なものが消えてしまったら。もしも世界から自分自身が消えてしまったら。そう想像することは、終わりのようで終わりにゃない。今生きている時間をかけがえのないものにしてくれるはずだからです。

この物語は私に「本当に大切なものは、失ってから気が付くものだ」と教えてくれました。だから私は、みんなと過ごしている「今」を大切にしたいと思っています。

今回、優秀賞をいただいたと聞いた時にはとても驚きましたが、大好きな本で賞をいただけて嬉しいです。ありがとうございます。



大学入試センター試験に挑む！

1月13、14日に行われたセンター試験。北高生は仙台大と尚絅学院大会場で分かれ受験しました。今まで培った力を発揮するべく、精一杯挑みました。3年生はセンター試験後、私大入試、国公立二次試験と、受験本番を迎えます。また、2年生(希望者)は1月14日に仙台市内で「チャレンジセンター」を受験し、来年に向けて本番さながらにセンター試験を体験しました。



試験会場では、応援に励んだ担任の先生方から激励を受けた

北高の創立と同じ1969年、名取市増田に創業した、宮城を代表するハンバーグレストラン「HACHI」。今回は、社長の角田秀晴様にお話を伺いました。

幸せを創るもうひとつの家族

（株）オールスパイス 代表取締役 角田秀晴



● ベースにあるのは「パパマママインド」

外食は、家族がちよつとした贅沢をする思い出のワンシーン。「家族の幸せ」ということを、震災後特に意識するようになりました。HACHIでは、パパママ店（父ちゃん母ちゃんが切り盛りする店）のスタンスを大切にしています。以前、店のテーブルで婚姻届を書いているカップルのお客様に気付き、従業員が咄嗟に判断し、パウンドケーキにメッセージを書いてお渡ししたエピソードがあります。自分の業務を限定せず、人を想う「非・テリトリー」精神が社内に根付いていることを嬉しく思いました。また、先日、当時の北高生でアルバイトをしていた方の親御さんに偶然お会いし、給料袋にいつもメッセージが添えてあるのを楽しみにしていた話を伺いました。プライベートと仕事は影響し合い、割り切れないものです。仕事が充実するとプライベートも充実する。「非・オン/オフ」と言った家族のような関係を大切にしています。

● あたりまえのコトをまじめにコツコツ

奇抜なことをしないと：と若い頃は思っていました。創業者である父は、米の研ぎ方、水切り等にも徹底的にこだわり、「まじめにコツコツ」が口癖でした。今になっていい言葉だとわかるようになり、店のキャッチフレーズにも使用しています。料理にも人にも「まじめにコツコツ」。洋食は、西洋料理を日本人の口に合うようにアレンジするもの。洋食屋には柔軟な発想が必要です。会社のビジョンも五年毎に見直し、社員で共有しています。

● 成長を実感する時

従業員の送別会で感謝の言葉を述べる時、自分の成長に気付く場面があります。成長するから仕事に魅力を感じる。仲間の成長は店の財産です。自分は高校生の頃から店を手伝っていましたが、大人と関わることは楽しかった。様々なお客様にも声を掛けていただき、職業観が養われたのだと思います。30代でサラリーマンを経験し、再び会社に戻りましたが、成長できる環境づくりが何よりも大切だと感じています。「店を持つこと」が目標なのではなく、その先にある「生きるビジョン」が大切。高校生も、将来を決めることを後回しにせず、おぼろげにでも将来の職業を今考えることで、学ぶことに対して目が開くのだと思います。北高生の皆さん、これからも応援しています！



「うらやす」での慰問演奏

ギター一部 特別養護老人ホームで慰問演奏

ギター一部 部長 阿部ひより（2年・柳生中出身）

1月12日、私たちは特別養護老人ホーム「うらやす」（名取市下余田）の皆様にご挨拶に温かく迎えていただきました。演奏に手拍子をいただいたり、一緒に口ずさんでいただいたりしながら、演奏することができました。後で「泣きながら聞いてくださった方がいらっしゃる」と聞き、心に残る慰問になったことを嬉しく思います。



昼休み時間に校内で開催されたコンサート



「うらやす」での慰問演奏

また、私たちは12月21日の昼休み、学校食堂のある名北館ホアイエでクリスマスコンサートを開催しました。冬の温かなひとときを提供する企画となりました。まだまだ足りないところもありますが、これからもよりいい演奏ができるよう頑張りたいです。

増田児童センターでのボランティアを通して

奉仕活動部はこの冬休み、増田児童センター及び名取市社会福祉協議会（配食サービス）に於いてボランティア活動にあたり、社会経験を積むことができました。多くの皆様にお世話になりありがとうございました。以下、増田児童センターでの感想を紹介します。

● 遠藤有彩（写真左・2年・岩沼西中出身）

児童センターのボランティアを始めて2年になりますが、行く度に子どもたちが私の名を呼んで集まってくれるので、本当に嬉しい気持ちになります。友だち同士でケンカになる時もあるのですが、子ども同士で自然と解決し、仲直りしてゆく様子を見るにつれ、子どもたちの力ってすごいと感じました。子どもたちの成長の様子を感じることができ、多くの感動をいただきました。

● 門脇颯香（写真右・2年・岩沼西中出身） 高1の夏、児童センターに行き始めた時は、どのように子どもたちに接したらいいか不安でしたが、今では私の名前を呼んで「遊ぼう！」と元気に話しかけてくれるのでとても嬉しいです。小学生は遊ぶ体力が溢れるほどあり、私も時間を忘れてしまうほどに元気をもらっています。学年に関係なく仲良く遊ぶ増田児童センターは、私にとってかけがえのない居場所になっています。



開いた本のまわりに児童が集まり、話が弾む



【宮城県名取北高等学校】

〒981-1224 宮城県名取市増田字柳田103
TEL 022-382-1261 FAX 022-384-8976

HP <http://natorikita.myswan.ne.jp>
mail chief@natorikita.myswan.ne.jp

（担当）教頭・町田尚彦
（学校だよりのご感想をお寄せください）

